

○地域内の特徴及び産業

千曲川の左右に広がる千曲市更埴地域は、周囲 53km、総面積 78.93 km²で、海拔 360.690 mに位置しています。北信濃の玄関口として古くから交通の要所であった当地域は、日本最大の竪穴式石室をもつ森將軍塚古墳にみられるように、古代科野の国の経済・文化の中心地でありました。そして、近年は、長野自動車道と上信越自動車道がここ更埴で合流し、また新幹線が開通するなど高速交通網が整備され、首都圏、中京圏、北陸圏がひとつに結ばれ、20世紀から21世紀へと時代が大きく移り変わった中で、更に未来へ向けて大きく羽ばたこうとしています。

更埴地域の工業は、独自のノウハウをもった研究開発型の企業が多く、食品・金属・電気・衣服と、その領域は多彩です。近年は、半導体、電子機器・医療機器などハイテク領域の成長がめざましく、国内はもとより海外でも、その技術は高く評価されています。商都としての伝統をもつ当地域は、大きく分けて屋代、埴生、稲荷山、八幡の四つの地区を核とする商業ゾーンが形成されています。旧街道沿いに残る商店街のなかには、蔵づくりの店舗が軒を連ね、独特の風情をかもし出しているところも数多くあります。近年は、市内に大型店の出店があり、年々活性化し、地元の消費志向が定着しつつあります。農業は、千曲川が育てた肥沃な大地を舞台に、水稻・麦などの穀類、長芋・馬鈴薯・玉葱・トマトなどの野菜類、あんず・りんご・ぶどうなどの果樹類、チューリップ・カーネーション・トルコギキョウ・菊・ユリなどの花卉類が栽培されています。このうち、特にあんずは日本一の生産量を誇り、またチューリップ・カーネーション・トルコギキョウなどは一大産地となっています。このように、更埴地域は工業・商業・農業が一体となった調和のあるまちです。

そして、東西に緑豊かな山林が広がる当地域は、多彩な観光資源にも恵まれた美しいまちでもあります。森將軍塚古墳の麓に建設された県立歴史館・市立古墳館や科野の里公園の一体は、古代の息吹を感じさせられますし、一目 10 万本のあんずの里は三百年の歴史をもち、開花の時期は一面ピンク色に彩られ、毎年全国から大勢の観光客が訪れます。また、名月の里・姨捨から一望できる善光寺平と棚田に浮かぶ田毎の月は、正に絶景であり、景勝地として古くから文人や家人に親しまれてきています。そのほかに、四季を通じて美しい台地、桜の名所大雲寺、交通安全の社でもあります武水別神社、ユニークなふるさと漫画館、涼感をそそる三滝など。域内各所には多くの名所・旧跡が点在しています。

このような交通の要衝として更埴地域は、今も住民参加のもとに快適空間『更埴地域』の創造をめざして、より豊かなまちづくりを推進しています。